



“河合隼雄さんの本” 園長 高杉 洋史

夏休みはいかがお過ごしでしたか。連日園児から、おばあちゃんちでの花火が楽しかったなどの楽しい話し声聞きこえています。私は芋畑の草刈りが気になりつつ、気温四十度近くの環境に恐れをなし、エアコンの部屋で読書三昧の毎日でした。久しぶりに河合隼雄さんの本を開いていたら、文化庁長官時代に当時の総理大臣から「二十一世紀日本の構想」懇談会の座長に指名され、多くの方との意見交換のうちに二十年後を見据えた報告書を提出されていることを知りました。なんとその二十年後って今のことではありませんか。そう思って読むと二十年前に面白いアイデアをたくさん出されていることに驚かされます。十八歳選挙権のことなどはすでに実現しています。多くのアイデアのなかで、教育に関する面白いアイデアがありましたのでご紹介します。

【学問の知見は日々増える一方なので、義務教育の教育内容も精選しないと小中学生も先生の負担も増える一方です。したがって義務教育の教育内容は根源的に見直さなければなりません。あえて過激な提案をすると現在の教科内容を五分の三までに圧縮し、義務教育週三日制を目指してはどうだろうか。週三日の内容をマスターしきれない子には残りの二日で手厚いサポートをし、理解の早い子は残りの二日で自分の好きな勉強をもらう。義務教育の小中学校時代にもう少し家庭での親子の時間を増やす環境を作ってはどうか。もちろん子どもたちにも先生にも保護者にもこれまで以上の財政支援を行う。】

西暦二〇〇〇年といえば、パソコンはウィンドウズ95のころで、よくフリーズしていたものです。調子が悪くなるとフロッピーディスク十五枚のSSを二時間かけて入れ直していました。インターネットのホームページもさほどなく、電話帳のような紙媒体の出版物があったことなど、今の保護者の皆様には信じられないでしょう。そもそもフロッピーディスクなんてご存知ないかもしれませんね。そんな二十数年前に批判覚悟で、教科内容や義務教育の在り方に対して自由なアイデアを公にし、議論の俎上にのせた河合隼雄さんはじめ多くの皆さんの柔軟な思考に出会えてうれしい夏休みでした。

本園の幼児教育もこの二十年でより良い方向に進むように努めてきました。これからも担任と副担任のチームティーチングの連携をさらに深め、アシスタントティーチャーの活躍とか、子どもたちと先生がゆとりをもってすごせる幼稚園の実現にもっともっと力を注いでいこうと思っております。





ミセスカレッジ 子育て講座より

第一回後半

教頭 高杉 美稚子



後半は、絵本の紹介から始まりました。ほとんどがワークで盛り上がりました。

1、絵本の紹介

- ① **きもちの絵本**ではそれぞれの登場人物、特にお母さまを取った男の子の気持ちで描かれた子どもの気持ち、その両親の気持ちについて頂きました。
- ② **だかっの絵本**では 親の言い通しにはなじめないけれど、親の気持ちをおののぼることで親子の関係を理解して頂く絵本でした。最後のページは、**えい、えい、えい**の**絵本**では当たり前のことを見て前にもう一度はまた前にはない、だから当たり前というところを周りの人、周りの人のいい所、焦点を当てることになりました。ようご紹介でした。

特に「だかっ」の絵本の最終ページは衝撃的な一言で終わるので、多くの保護者の方がびっくりしたり、衝撃を受けられたようでした。私も初めて読んだ時、とても衝撃的で印象に残っており、各大学で幼児教育を目指す学生や、他の所で講演を頼まれた時は、必ず紹介させて頂く絵本です。直しければ手に取られてみることをおすすめします。

2、赤のワーク

周りを見て赤いものをさがすゲームがあります。目をしぼってかき書きのものをさがすゲームと答えることは難しい場合が多いです。なぜなら、赤いものしか見ていなかったので答えられないなんて当然です。青いものはその人のいいところ、赤いものはその人の欠点だとしたらどうでしょうか。私達はその人の欠点はわかりにくい、いいところは見えにくいのです。そして、どんな人の欠点も視点を変えてみると長所に

変わります。

嫌だ、失敗と思っていた出来事も、人や自分の嫌いなところも捉え方を変えれば学びに変わります。自分の視点、捉え方、感じ方、考え、思い込みなどの捉え方を変え、自分が行動変化し成長するよう、リラックスして人生を楽しんでいくことが出来、手助けができれば、こんなに嬉しいことはありません。

3、姿勢編集

最近姿勢を見上げていますか。落ち込んでいる人は自分でも知らないくらい、口角が下がり、首はうなだれて歩いています。時には右を向いたり、屋根の上には何かがあるか見たり、緑を見たりするようになります。落ち込んでいる子どもも肩を上げたり、あごを少し持ち上げてあげただけでも瞬間的に気持ちが変わることもあります。

又、子ども達が怪我をしたとき、肩をいからせて「痛かった」というか、肩を落して言うかどちらの伝えかたが変える必要があります。肩をいからせている時は「すい、大変、こんな大きな怪我、我慢してすい、すいね」と大騒ぎして認める言い方、肩を落として居る時は「大丈夫、大丈夫、大したことはない、ちゃんと手当てしてあげるから心配しないで」と静かに受け止め安心する伝え方がよい気持ちに寄り添えます。

4、1枚の絵

白い画用紙を一人一枚配り、等分、また2等分また2等分して、何に見えぬか、考えてもらい発表してもらいます。様々な答えが出てきますが、お母さん対象の研修では豆腐、パン、納豆、牛乳のパックや、冷蔵庫、洗濯機、幼稚園の先生の研修ではピアノの教則本、机、椅子、

絵本、企業の研修ではパソコン、企画書、レポート、シミュレーター、コピー機など、自分の見えている世界の物が多く出るので。ただの一枚の白い紙を見ても捉え方は様々、人と、自分の見えているもの、聞いている世界は違う。事実と見解は違うというワークを体験して頂きました。

5、ほめるワーク 「だからよかった」を取り上げて言ってみる。そして続ける。2人組になったりもいろいろほめあい、認め合おうワークです。ただ見えていないという印象でもいろいろ、素敵な所を誉め合います。このワークで気を付けてほしいことは心で本当に思ったことだけは伝えるということです。

そして見返りを求めないことです。見返りを求めることを条件付きのストロークといいますが、伝え方を間違つて「それが出来なければあなたは大変だ」と逆のメッセージを受け取られて、相手を追い込んでしまつたこともあります。例えば、教育では待つということが大切ですが、待つとあけていこうという気持ちで、その先がOがなければならぬという思い込みがあれば、条件付きになりますから相手は苦しみます。自分も待つという間、Oを期待して我慢するようになります、辛い時間になります。

又、妬み、嫉み、嫉妬から誉め合うこともありますね。「そのスカートすてきなね。シャネルかしら」その心は「本当は偽物じゃないの。」と思つているかも知れません。相手が肯定的か否定的か、心が分らない時は笑顔で「あしがうっ」と返すのが一番いいですね。肯定的にうってかわっているのであればそれではいい、シエラシーから言っている人は

「本当はこれ偽物、チャンネルなの」という誉めを期待している人には肩透かしになるでしょう。

6、共感 体をほぐすワーク **7、美・ストレッチ**
心の健康の為に体の健康も大事、運動がとても大切です。クリムソニー番をBGMでストレッチをして頂きます。

最後に私の話を聞いてほしいもごうへの反応があります。

1、いつもおへ字ぶた、何かひびくともやめてみよう、考え方や伝えかたをかえてみよう
2、こんな人にはなれない、私はダメだと自分を否定する、話を聞いて余計に落ち込みました
3、いい話を聞いて、でも理想論だ、で終わる、この部屋を出るまでは覚えていなければ、一歩出たら忘れてしまう、これも自由です。いろんな受け取り方があるって当然です。そして、これを聞いて一歩を踏み出すかどうかもあるかもこの話を聞かれた皆様次第です。

幸せとはいつも同じものではなく、自分が感じるものを感ずるかは、「嬉しい、楽しい」のワクワク感を感ずることで、誰かを愛するようになり、感動したり、感謝したくなるようになり、誰かと共に楽しむようになり、幸せになるために生まれてきたのです。幸せになつていいのです。それを決めるのも感じるのも自分です。幸せになるために、選ぶ道はごつちかなのです。

人生に悲しい、辛いことはいっぱいあります。それはなくならないけれど、見方、聞き方、捉え方、考え方、感じ方を替えれば、「だからよかった…」になるのではないうちよいか。

どんな事実にも、選ぶ道はいろいろある、選べるのは自分しかありません。人の意見を聞くことは大切です。

たくさん体験をするにはもっと大切です。そしてその体験の中から何を感じても、最後にそれを選んだのは自分です。
「できないうちのうちは、どきどきする心でこのことを認めてあげまじょう、自分と、周りの人に」そうすると「否定」が「反省」になって「反省」が「気づき」になって「気づき」が「学び」になって「学び」が「新しい挑戦をする心」を作ってくれる「学び」の心を作ります。

「OOの壁」養老孟先生の言葉の意味は、新しいことを排除する、人の意見を聞かない、切り替えようがないで、悩みを辛い、嫌なことを正当化して、その留守り続けることが自分で作っている壁なのではないかと感じています。もちろん、その留守りたいたいのも自己決定です。貴重な壁様の時間を預け頂いたので改めて感謝申し上げます。終わります。



さて長い夏休みが終わりました。夏休み、小学生も含めて、子ども達が家に戻り、お母様は楽しんであり、ご自身も忙しい日々が戻りました。ご推察致します。と同時に、かけがえのない子ども達との原風景のロケを撮ったと思います。

私が子育てしているときも同じで、中学校に入つて、部活動を始めた途端、家族旅行もいけず、勉強も忙しくなり、本当に小学校までが大切な親子の時間だったなあと思ひ返つています。

本園の教育の根幹をなす3つの柱の1つ、『思い出す感動を作る』をあげたいです。

「子ども達の心に残る原風景をどうして作るか」は、いろいろな形で結ぶことができます。

心に残る原風景はいついたら残せるのでしょ
うか。

ちやちやと振り返ってみて下さい。皆さんが覚えて
いる記憶の中で一番口ごもるのは、いつだった頃の
ものでしょうか。自分の記憶に残っている一番幼い頃
の頃のものは、何歳の頃のことが思い出せますか。

普通では、生まれて初めて歩いた日の事を記憶し
ておける人はほとんどありません。私も
百人の中の一人、一番口ごもる思い出を尋ねても
答えは大体三歳ころ、せせせと迷子になったことが
転んでケガをしたことがあった、断片的なテレビド
に落ち着いてしまっこと、それより過去に何かのぼる
事はできません。あの頃のことが
それは私たちが自分で経験したことを記憶して
定着させるためには、言葉が不可欠であるからです。
体験した内容を、「お話」にするのが求められる
のです。お話の筋に従って、体験を系統立てた
繋ぎ合わせて初めて、情報は蓄えられます。
そのお話を他人に話して聞かせられるよほどの能力が
獲得されるのが、まさに三歳頃のことなのです。

三歳の子どもは「もののついで」何だかんだ
か「ついで」でも、まあ覚えておきましょう。
でも、言葉を聞いておぼろげに「今日はお母さん
の話を食べたよ」と話のなかの「言葉」が
その際口ごもる「三歳頃」の頭の中に残って
います。話のついで記憶は形成されていきます。ただ、
大人は三歳頃と違って、口ごもるなくても心の中
で「ぼろぼろ」として体験をお話して聞かせるよほど
おぼろげに「言葉」を蓄えられた子どもは、たいていおぼ
ろげです。だから実際は「昔」の口ごもる何だか

繰り返して済んだ情報しか残っていかないので

それゆえ、覚えておけるものは、少なからず
のりです。

『言葉をもたないと全部忘れてしまっ』とは、言葉
の数の広さと深さが少ない幼児期の原風景はいつ
いたら残ってあげられるのでしょ

またこの頃の樹幼稚園で大切にしている感動を
持つことの大切さが、この頃だったの当時はあるの
です。親が感動するからこそ、その感動が言葉とな
って子どもに返される事の意味の大切さが、この
あります。人は、感動しなければ共感しなければ、
言葉を発する事はできません。

だから、いつになっても、何人目の子どもでも
人は、特に子を持つ親は感動して頂きたいのです。
(その頃、言葉を話さなくても、悪口や批判はつ
かりだったりすれば、子どもにとって良い原風景を
作る事はなりません。だから、いつも良い言葉を
を聞かしてください。感動して子どもに良い言葉を
かけてあげてください。そのお話を続けて頂きたい
のです。そのお話を聞いて、子どもは言葉を獲得
していきます。言葉をもつ記憶に残ります。記憶
に残る、良い原風景が形作られていきます。

では、夏休みが終わって、私達大人がすべき事は
なんなのでしょ。それは、子ども達に感動した
ことを伝えることです。子ども達がわかる言葉で、
具体的に繰り返しお話しをお話して、感動を、再び共
感してあげたい、それが、原風景になる
決まっています。

いつかはなごの

「夏休み、一緒に掃除したね」とな些細な思い出
でいいのです。そのおぼろげに、子ども達に心の
陽だまりの原風景を少しでも残してあげることが
出来たら、子どもが(いいえ大人になっても)、
いつの日か、疲れ果て羽が折れることがあっても、
そこで羽を休め、再び、飛び立つ勇気を持って
くれるに違いありません。心が傷ついた人を休ませ
てあげる心のゆとりがある子に育ってほしい。
自分の命と同様、人の命も大切にすることを
育ってほしい。そのうち、青少年の多感
な時期の問題解決に繋がっていきます。

だから、少なからず、私達子どもの周りの大人
人(親と教育者)は、いつも新鮮な気持ちで、感動
する人でいましょう。我が子のちやちやと心配な
うに、そのうち、そのうち、そのうちを見出せる
人です。その心のゆとりを持ちましょう。
優しさをもちましょう。「こんな風に素敵だったね。」「
夏休みこんなことがあったね。」「こんな話を
一生懸命だったね。」「感じたことを言葉にして伝
えてあげたいね。」

子ども達の為に、何か園にあるために、家庭に
何かあるために、何もなくても何も無い平和な
生活であること、感謝して、感動して生きてい
きましょう。そして、直ぐお願い致します。

